

小中学生のための

的確に読む力をつける！

# 国語勉強法

国語力は**すべての教科、というか人生のあらゆる学び**の基本だからね…  
正しい取り組み方で、楽しく力を着けていこう！



こういう都市伝説級の話に欺されないようにね！



- ⑥国語力を上げるにはたくさん本を読むのが一番。
- ⑥漢字を憶えるために、何度も繰り返し書くしかない。
- ⑥とにかく一問でもたくさん問題を解いて、文章と問題に慣れよう。
- ⑥長文問題で時間が足りないなら速読をマスターしたらいい。

国語の勉強は、一見「つかみどころがない」感じがします。  
なので、上の4つのような勘違いが生まれがちです。  
正しい考え方と、正しい学び型を理解して  
“本当に力が着く勉強”を積み上げましょう！

国語力をここでは文章読解力に限定して解説していきます！



言葉の結びつきを  
的確にとらえる力

接続詞による  
文章のつながりを  
的確に把握する力

推論により文脈を  
深く読み取る力

段落の構成など  
文章の構成(造)を  
的確に把握する力

英語や数学など他教科  
でもとても重要になる！

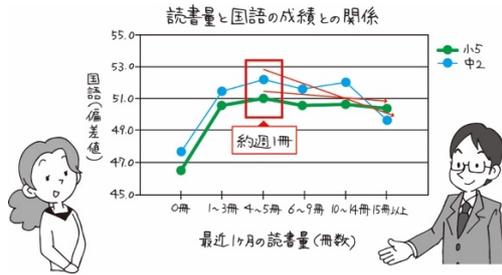
感覚で処理せず、分析  
的に読む力が必要！

言葉の表面的理解だけ  
でなく行間を読み取る！

読む時には、前からの  
流れを常に意識する！

## ①読書で国語力のベースを作ろう！

### 📖“たくさん”の本を読むことには、あまり意味がない！



このグラフはベネッセ教育研究所から発表された資料を元に作成したものです。

小学生・中学生とも「読まないより読んだ方がいい」ことは間違いなさそうですが、週1冊以上のペースを読むことに、あまり意味がなさそうだということは理解できるでしょうか。とりあえず「目標は週1冊」で問題なさそうです。

量を求める代わりに、次の3つのことを採り入れることで読書力が高まると考えられています。

### ①いろいろなジャンルの本を読む！

大好きなシリーズばかり読んでいると語いも知識も増えません。慣れてくると感覚的に読んでしまうようになり、分析的な読み方から遠ざかりがち。例えば、ミステリー・SF・昔話/民話・詩・フィクション・伝記・説明文・歴史小説…といったような幅広いジャンルからバランスよく読むよう心がけましょう。

### ②自分の理解をモニタリングしながら読む！

「これってどういう意味？」「さっきの話と変わったな」など、読んでいる自分の理解の状態をモニタリングし、文章にツッコミを入れながら読んでいきましょう。

### ③読んだ内容について語り合う時間を作ろう！

一人で読んだ内容を誰かと語り合うことで理解が整理されますし、自分で気づかなかった考え方、とらえ方と出会えます。この“読んで語り合う”ことは“効果的な読書”をつくる上でとても大切なことなのです。

## ②言葉のつながりを的確に処理する力を着けよう！

日本語は助詞（くっつき言葉）のお陰で言葉の役割が分かりやすく、また読みやすいフィクション作品（ラノベなど）には指示語や代名詞も、複雑な修飾関係も見られません。そのため感覚的に読んでも意味のつながりが分かったような気がしてしまいます。

ですが、小学校高学年以上で求められるのは「分析的に的確に読む力」です。ぜひ、小学校5,6年生までに「分析的な読み」のトレーニングを通じて読解力の基礎を固めておきましょう！

### ①主語-述語、修飾-被修飾の関係を正確にとらえる力

これが弱いと英語の勉強で、すぐに天井にぶつかります。数学の文章問題も同じですね。（「分けて・つなぐ」問題👉）

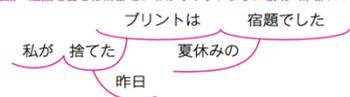
### ②文章を具体的な図やイメージとして整理・表現する力

言葉で「なんとなく分かった」は分析する力になりません。言葉で表現されているものを、具体的なイメージに落とし込む練習が必要です。（「文章イメージ化」トレーニング👉）

### ③指示語や接続詞を介した文や言葉のつながりをつかむ力

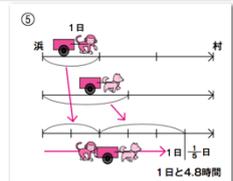
国語の問題でよく試されますが、文章読解を考える上でとても重要な力です。

例5 私<sup>1</sup>が昨日捨てたプリントは、夏休みの宿題<sup>2</sup>でした。  
主語・述語を含む修飾部を、わかりやすいように被修飾部につなぎましょう。



⑤ 宝物を載せたリヤカーを、浜から村まで、猿1匹だけで引いていくと3日かかりました。犬1匹で引くと2日かかりました。犬と猿が力を合わせてリヤカーを引くと何日と何時間かかりますか？ なお、キジは非力なので宝物の運搬には関わらないことになりました。

文章で表現された情報を整理して図にする。





慣れるまでは、面倒くさがらず「力になる読み方」を試みよう！

## ■教科書や読解テキストの5回繰り返し読みで読解力を高めよう！



⇒ 読解問題に取り組む基本パターン      ことのばで採用しているテキストはこちら⇒

### ① まずは一度、丁寧に黙読する。

どのようなテーマについての話なのか、どのようなストーリー、結論なのかを確認します。

**作業** 知らない言葉や漢字があれば、右肩に✓をつけておきましょう。

### ② ✓を付けた言葉の意味を、前後の文脈から推測しながら、全体を読み直す。

**作業** 推測した上で、すべて読み終わったら辞書で言葉を調べましょう。

### ③ 接続語を○で囲み、指示語に傍線を引きながら読み直します。

**ポイント** 接続語には「しかし」「そして」のような接続詞と、「読んだけれども」などのような、文節に接続助詞が含まれるものがあります。

### ④ 印を付けた接続語・指示語がどの語・文をつなぎ、あるいは指しているか線を引きながら読み直します。

**ポイント** 指示語の場合、「その」などの指示語の部分に、指し示す部分を入れて読んで意味が通らなければなりません。接続語の場合、何と何が対応されているか明確に示しましょう。

### ⑤ 言葉・文のつながりを意識しながら、もう一度読み直します。

この後で読解問題にとり組んでみてください！

## ■読書が苦手な人のための音読トレーニング

### ① 読むことに苦手意識がある（音読するとたどたどしくなる）レベルの読み物を用意します。

子どもの場合は教科書でもいいですし、興味の持てる書籍でも問題ありません。読む分量は原稿用紙2枚分程度（子ども向けも書籍なら2～3ページ程度）です。大人の場合は、岩波新書などがちょうどいいでしょうか。（難しすぎるものはやめましょう。）

### ② その文章を「十分に流ちょうに読めるようになるまで」繰り返し読みます。

「十分に流ちょうに」とは「間違いがゼロになる」状態ではありません。たどたどしさがなくなり、スムーズかつ抑揚を付けて読めるようになれば問題ありません。目安としては6～7回です。

### ③ 1回読み終わるごとに、読んだ内容を軽く振り返るようにしてください。

### ④ 流ちょうに読めるようになれば、次の文章に取り組みましょう。

新しい文章に取り組むと、前の読みよりも間違いが減っており、流ちょうさが上がっていることに気がつくはず（数回やると実感できるはず）。

## ■語いを増やそう！

### 👉 長い目で見て、「漢字と語い」を増やすことは学力（学ぶ力）アップにとっても重要🌟

### ① 漢字検定は「今の学年+1～2級（例：小学5年⇒4級, 中学3年⇒2級）」を目標において取り組んでみよう！

### ② 語いを増やすために、幅広いジャンルの本をたくさん読もう！ 辞書を引き、ことわざ事典などを引いて言葉を確認するのも大切！（1つの言葉がどのような文脈で、どのような言葉と共に使われるのかをリアルに体験しよう！）

## ■試験対策を完璧にこなして、自分史上最高得点を目指そう！

### ●\* 定期考査対策は3週間前から取りかかりましょう！

- 1) 試験3週間前になったら、前回の試験対策学習を振り返り、その反省の下で、今回の学習の課題と対策そして試験の目標を考えます。
- 2) 試験前3週間の計画表を作り、計画的に実施します。

#### ■日々の授業の復習 または試験21~18日前までに

- ① 教科書の試験範囲部分を音読または黙読し、難しい言葉（意味が分からない言葉や試験に出そうな言葉など）と漢字を専用ノートに書き出す。

**作業** ノートを2分割し、憶えたい言葉・漢字を赤のフリクションボールで書き、その言葉の説明や漢字の読みを鉛筆で書いておきましょう。

#### ■試験17~12日前くらい

- ② 先に説明した方法で教科書を分析的に読んでいきます。（目標7回以上読む）

**作業** 4回目の読みの時に、授業のノートを見ながら、テキストに補足説明や注意点を書き込んでおきましょう。

- ③ 専用ノートに書き出した漢字と言葉を反復想起練習します。

**作業** 言葉・漢字を憶えるために、憶えたい方（言葉・漢字⇄説明・読み）を下敷きや赤シートで隠して、繰り返し思い出しましょう（書き取らず、そらで思い出します）。

#### ■試験11~4日前くらい

- ④ 学校指定のワークブック、教科書準拠の問題集に取り組みます。

**ポイント** 一通り自力で取り組みますが、あまり長時間考え込む必要はありません。考え方が分からない問題があれば、**正答と解説を確認した上で「なぜ、この解答なのか」**を考えるようにします。間違えた問題は3日以上あけて再挑戦し、単に「答えを憶えているから解ける」のではなく、「考え方が分かった上で、正解できる」状態を目指します。

#### ■試験3日前~前日

- ⑤ 定期テスト対策問題集に取り組みます。

漢字や語句のチェックも含めて、全体をおさらいしておきましょう！

## ■試験が終わったら？

- ① 定期考査や模擬試験が終わって、答案が返ってきたら…間違えた問題をやり直すことよりも、その問題を正解するためには、どのような勉強をする必要があったのか、試験対策学習を思い出しながら、自分の勉強の改善点を確認しておきましょう。
- ② 問題そのものを再点検する場合には、(1)そもそもテキストの文章は十分に分析的に読めていたのか？ (2)設問で問われていたことを、十分に理解できたのか？ (3)問われたことに的確に答えられたのか？ (4)誤字脱字など、もったいないミスはなかったか？ という4点からチェックしましょう。
- ③ もし、(1)~(3)に課題がありそうなら、「分けて・つなぐ」トレーニング+「5回繰り返し読み」読解トレーニングに取り組んでいきましょう。



“読解力の道は一日にしてならず” だから、コッコツね！

## ■漢字検定で「自分の学年+2級」を楽々突破しよう！（対象：小4以上）

### ●\*漢字検定試験対策は3ヶ月前から取りかかりましょう！

- 1)現状でどのくらい漢字を書けるかにもよりますので、初めて受験するときは自分の学年の級から「腕試し」として受けてみましょう。
- 2)勉強時間は、週5~6日×20~40分を想定しています。

### ■使用するテキスト

#### ➢前半の学習用：ちょっとやさしめのテキスト

**ポイント** 数ページごとに【漢字の一覧+読み・書きテスト】があり、そのあとに【まとめのテスト】、さらに巻末に実力問題がついているもの（たいていはそのスタイルです）。

#### ➢後半の学習用：練習問題中心のテキスト

**ポイント** レベル別に、網羅的に出題されており、抜け・漏れが確認しやすいもの。過去問も3回分以上あると理想。時間とやる気に余裕があれば2冊どうぞ。

### ■試験3ヶ月前からの1ヶ月

#### ① 試験範囲の漢字を一通り眺めていきます。

**ポイント** **知っている漢字**は、読みと使用例（熟語）を確認するだけ。

**知らない漢字**も同様ですが、文字の上に「✓」を入れておきます。

知らない漢字が多いのが前提なので、基本的に書かず、部首・読み・熟語を

確認し、要注意と感じた部分に赤ペンで印を付ける程度に済ませてください。一冊、スピーディーに終わらせましょう。なお、新しい範囲に取りかかる際、最初に3日前に取り組みで✓を付けた漢字だけ再確認しましょう。



### ■次の2週間少々

#### ② 確認作業(①)が1冊すべて終わったら問題に取り組みます。

**作業** 漢字の一覧表を見ないように注意して問題に取り組みます。**読み問題**は答えを口に出すだけでOkです。1ページごとに答え合わせをしますが、できなかった問題には✓を付け、付箋を貼り（正解を書き込まない!）、答え合わせが終わってから間違えた問題に再挑戦します。再挑戦でも書けなければ、すらすら書けるようになるまで宙に指で書いてみましょう。

**ポイント** **【3秒ルール】** 3秒以内に書けない漢字はパスして、一気に一ページの問題を終わらせます。**絶対に思い出そうと時間をかけてはいけません。**

#### ③ ✓付き問題をやり直します。

**作業** ②の問題集が1冊終わったら、最初に戻り✓&付箋が付いた問題だけ取り組みましょう。今回は1冊を通して取り組みます。ここで正解できたら付箋をはがしましょう。

### ■次の1ヶ月

#### ④ 練習問題中心のテキストに取り組みます。

この問題集は最初からすべてテキストに丁寧に書き込んでいきます。3秒ルールにしたがって進めましょう。答え合わせ、やり直しなどのやり方は②・③と同じ。すべて付箋をはがし終わったら終了です！



### ■試験までの2週間

#### ⑤ 過去問・模擬試験で弱点発見！

時間を測って丁寧に取り組みます。答え合わせのやり方は②と同じです。間違えた問題は、すべての過去問・模擬試験が終わってから再挑戦しましょう。

もし、明らかな弱点が見つかったら、新しい問題集で④に取り組みましょう！

小学校時代に漢検3級、中学校時代に漢検2級合格を目標にしてみよう！



# 漢字はSRICE原則で超効率的な勉強を！

**Separation ⇒ Connection**  
(分けて・つなぐ原則)



部首・作り・音などから他の漢字と結びつける。

**Chunking**  
(チャンク化原則)



語呂合わせなど整理・統合で覚えやすい情報量に。

**Repeated retrieval**  
(しつこく思い出す原則)



思い出す回数を増やす。

**Episode**  
(体験・知識結合原則)



知っていた言葉、使われるシーンと結びつけて憶える。

**Impression & Imagery**  
(印象&イメージ利用原則)



イラストや図、ダジャレなど印象に残る工夫をする。



# 学習の基本《Uプロセス学習理論》

これから学ぶ漢字・語いの確認  
※基礎読解トレーニング・論理思考トレーニングなど

問題集《発展・応用》  
※読解力は日常の読書・作文などの実践がここに該当します！



「なるほどー！」的な  
気楽な確認作業

意識的作業 ↑

無心の反復作業 ↓

とにかく無心に反復し  
ムラなく入力する作業

応用問題を丁寧に  
解いていく作業



ひたすら出力練習して  
そのたびに修正する作業

弱点を中心に何度も確認  
※読解力はテキスト・問題集への取り組みすべてがここに該当します！

入力



出力



応用・発展問題への挑戦  
※読解力は定期テスト・模擬試験等がここに該当します！

## ■寺田 昌嗣 (てらだ まさつぐ)

福岡高校、名古屋大学・法学部卒。元公立高校教諭（公民科）、中学校進路指導主事。現在は、九州大学大学院・教育学博士課程で「読書教育」と「学習ストラテジー」の研究に励みつつ、小中学生から社会人まで幅広く読書指導、学習法指導をおこない「自分の力で学び、成長できる自律した大人」づくりを目指している。2008年にはベネッセ中2コースの特集記事の監修も。2016年春に高取商店街に読書&学習教室「ことのば」をオープン。学習のセカンドオピニオンとして個別の学習相談を受け、その子にあった学習法指導をおこなっている。



◎「勉強してるのに成績が伸びない」、「小学校時代にどんな勉強をさせたいの？」といった悩みがあれば、いつでも気軽にご相談ください！